

## 祖山學院雜報

武 田 生

- 一、祖山學院教授永倉唯嘉先生は今春文部省専門學務局教務課へ榮轉された。
- 一、祖山學院の先生であつた早田龍心先生は此度九州帝大へ癩の無鹽療法に關する論文を提出し、醫學博士を授與された。
- 一、今年學院卒業生と在學生の前途に光明を與へる人事課が祖山學院内に設置されたから、住職や執事所望の方はどしどし申込まれたい。
- 一、本院卒業生にして大講論文を提出せんとする者は、論文とその書留送料と、審査料金拾圓とその書留料を學院宛お送り下さい。學院では論文と依頼狀を宗務院へ、審査料を立正大學會計部へ學院の名で發送する。そのうち諸君の手へ論文パスの通知が宗務院からとゞくであらう。
- 一、卒業、在學、成績等の證明書請求者は手数料金五拾錢と送料貳錢をお送りさい。

## 校友會報

二八八

誠に身延山の栢は、千早振る神もめぐみを垂れ天降りましますらん！哀れを催す秋の暮れには、草の庵に露深く、軒にすだくさゝがにの糸珠を貫き、峰の紅葉いつしか色深ふして、絶へくにつたふ懸樋の水に影をうつせば、なにしほう龍田川の水上もかくやと疑はれぬ。(身延山御書)

と、示された秋の身延、散り敷く木の葉に朝な朝な霜白くなり、七面山の巔の白くなるのも遠き事ではあるまい、澤庵大根の乾されるのも近きことだらう。

心なき風に、一葉また一葉吹き落されて、枝もたわゝに、クツキリと黄金色の柿の實に、惡童が、百舌鳥がうるさくもつきまたふて居る。

祖廟中心、祖廟に集れ、祖廟を守れ、と聲は大であり、又誰しも反對し得ぬ事柄だけに、ヂリヂリ、引き摺られては居るが事實は是と反したる運動、柿の實に寄り付く惡童の類が無ければいゝがと心配になる。

祖廟中心でなければならぬことは已に嚴然たる事實であり、宗門一致の聲であるべき筈だが未だ一部には、祖廟中心といふ事は宗是ではない、なんていふ學者先生もある世の中だ、愚に

もつかぬ理窟を並べるのが學者だといふならば惜く、唯々悲しむべき事はそんな連中がアチラでも角を出しコチラでも角を出して居る爲に門下統一も濱の松風聲音ばかりで終る事だ。こんな極めて見易い事さへもが已に然り、況んや余事をや。あらゆる宗教の指導者として立たねばならぬ本化別頭の妙宗が、權門と並立するはおろか、常に立ち後れの状態にあるも無理からぬ事ではあるまいか。

我等の第一の任務は、祖廟に集る事であり、之を護る事である。而も正しく祖廟が護られねばならぬ。「日蓮を敬ふとも悪しく敬はば國亡ぶべし」と、聖祖は誠められた。「祖廟を護るとも悪しく護らば宗門亡ぶべし」と、知らねばならぬ。一切の自己中心の考を掃除して最後に残るべき護惜大法の信念で祖廟に額突きたい、是が我等の念願であり、此の念願に催されて結成されたのが我等の校友会である。

今年は三月北海道の溝田玄靜君が久し振りに登詣せられた。其の背猿滑りの木（枝にあらず）をステツキに町を潤歩して新聞の三面を賑はした當時の君と顔も變らないが、気分も變らないらしい、ヤハリ懐しい玄靜さんだ。辻能學君も夏參詣された芦洲と號して棲神誌上に健筆を振ひ、盛んに茶目つた當時から見ると大分時代が付いた様だが、未だ〳〵昔の稚氣は失せない。其の外尙幾多の校友の參詣はあつたらうが、親しく面會の機を得なかつたのを遺憾に思ふ。

今年は三浦の恩師が古稀を迎へられたのに對して、昔「法相

が聞い」と怒られた連中の有志相語つて心計りの御祝ひを申し上げ御慰めの印とした。校友会の仕事ではないが記して置く。

會として特報すべきは、東京と岡山に支部が設立された事である。東京には嘗て大正九年夏伊藤海聞、泉義敬、小川圓如、三和連城、今村鍊志、内野海潮、猪口海靜、橋村榮運、長田義正、故望月海正、佐藤慈典、及び當時青山署勤務の若林君と僕を加へて十三名で、祖山出身在京同志會を組織し、今年六月廿日小傳馬身延別院に發會式を挙げ、山田良勇僧正を聘して講演會を開催し、小林一郎氏の玉稿を請ふて、パンフレット靈光を發行し、次で全十年、望月宗康君、故藤田光肇君、高橋榮教君等を迎へて益々氣勢を添へ十月十六日打揃ふて祖山に參詣した所が、同窓會でも歡迎茶話會を開くやら記念寫眞を撮るやら大騒ぎをしたものだつたが、元々學生ばかりの會であつた爲に段々會員が減り、大正十二年には今村、橋村、若林君等の外は全部東京を去り、同志が居なくなると共に同志會も自然消滅になつて今日に及んだものだが、其の當時の主唱者であつた伊藤兄が再び發企者となつて大々的に復活結成されたのが此度の支部である。今會の規約及び會員を左に紹介して此の會の永續と隆昌を祈るものである。

### ◎祖山同窓東京校友会々則

一、名稱 祖山同窓東京校友会ト稱ス

二、目的 本會ハ異體同心ノ聖訓ニ基キ會員相互ノ親睦ヲ計リ祖

廟中心ノ信仰ヲ以テ宗風ヲ宣揚スルヲ目的トス

三、會員 祖山出身者又ハ學籍ヲ有セシモノニシテ東京ニ在住ノ者ヲ以テ組織ス

四、會議 本會議ハ左ノ如シ

一、定期總會 毎年四月中開催ス

一、臨時總會 事宜ニ應ジ開催ス

五、役員 顧問、贊助員 若干名、會長 一名、幹事 七名

一、顧問及ビ贊助員ハ祖山關係ノ有力者中ヨリ推戴ス

一、會長ハ會務ヲ統理スルト共ニ本會ヲ代表シ會員中ヨリ五選ス

一、幹事ハ會長ヲ輔佐シ本會ノ會務及會計ヲ處理ス

一、會長並ニ幹事ハ任期ヲ一ケ年トス

六、會計 本會ノ會計ハ會員ノ會費及ビ其他ノ特殊寄附金ニ依ル

一、本會ノ會員ハ一ケ年金壹圓也ヲ定期總會迄ニ會費トシテ納入スルモノトス

但シ必要アル場合ハ臨時徴收スル事ヲ得

一、本會ノ決算ハ定期總會ニ於テ報告ス

七、本會ノ會則ノ變更ハ總會ノ決議ヲ要ス

昭和拾年九月十五日創立 以上

會長 篠原智光  
幹事長 伊藤海聞  
會計 荒木義榮

幹事 松田文逸  
全島龍明  
全新川貫洲  
全白川榮澄  
全三木淨達

出席者二十名  
篠原智光 長谷川台明 金子鍊志  
伊藤海聞 荒木義澄 松田文逸  
島崎龍明 白川榮澄 竹岡文風  
新川貫洲 重松龍覺 水田雅弘  
三木淨達 柳井英學 原川龍啓  
渡邊顯照 梅谷克巳 佐々木是綱  
鈴木宗明 照井克巳

岡山には先きに谷口玄秀君、近藤憲正君、八木慈文君、山本隆也君等が居らるゝ所へ今春松下圓信君が南來して歸られて居る此等の諸君が中心となつて、去る十月下旬、法主殿下の御親教を記念する爲に校友支部を結成し、御親教中も献身的の奉仕を得たる由隨行員より傳へ聞き遙かに感謝の意を表して居る。

來年は恩師龜口龍謙僧正の還曆にならるゝ由故、何んとか慶賀の意を表し度いと思つて居るが其の機會に、大先輩伊藤海伯兄、望月宗康兄等を煩はして静岡に支部を設立して貰い度いと思つて居る。

尙校友諸君の近況、其の地方に於ける宗教情勢など折々御通知下さるれば是を身延教報に掲げて、お互の動靜を知り、且つ知らしむるの資に供したいと思ひ、御通信を御待ちしつゝ、擱筆する。

(新嘗祭の當日 松木靜堂)